

(ま)
(つ)
(く)
(り)
3

活力ある元気なまちづくり

【産業】

**地域に活力を生む
経済政策を推進**

企業誘致については、在京郷人会等の協力を得ながら成長企業を紹介していくなど、チャンスの拡大に努めています。また、地元企業を支援するために、企業設置奨励条例を改正し製造業等の雇用要件を5人から3人に緩和したり、大規模企業立地促進奨励金制度を活用したりすることで企業の設備投資を促します。また、層の雇用の創出を図っています。

産官学連携による新規ビジネス創出や地元企業の技術力・販売力アップのために、県内外の大学生対抗によるビジネス

「スマートテスト」「トオコノ」の開催や新商品等の開発支援、販路拡大活動への助成などを展開しています。

地域ブランドの構築については、十日町ブランドメニューの開発を目指す市民の自主活動を支援しています。大地の芸術祭をきっかけに、地域の名産品を若手クリエイターの手でリデザインする「Rooootis」の取り組みで生まれ変わったパッケージなどがグッドデザイン賞をはじめとする国内外のデザイン賞を受賞し、新たなブランドの確立に成功しました。

さらに、「全国きものサミット」や染織の祭典「十日町祭」、「十日町産業フェア」などのイベントを通じて地場産業の振興支援に努めています。また、友好姉妹都市など交流都市のほか、紀州梅で知られる和歌山県田辺市との名産地連携など、他の自治体とも積極的に連携し、十日町市産品の情報を発信することで、產品の販路拡大に取り組んでいます。

十日町市のポテンシャルを最大限活かして

企業誘致の戦略的展開、産官学連携による新規ビジネスの創出、地場産業の振興支援、商工団体の活動支援、交流都市とのネットワークの推進など、地域に活力を生む経済政策に取り組みます。

農林畜産業を、十日町市で最も将来性があり、他と差別化できる産業としてとらえ、意欲ある農業者の育成と多様な集落営農システムの確立、農産物のブランド化、6次産業化を強力に推進します。

新時代を生き抜く 活力ある 農林業のために

農業の担い手確保のため、新規就農者の支援として、就農希望者の農業実習に係る経費の一部を助成するほか、市内23の農業生産法人への就職や個別経営による自立への支援を行い、担い手の育成に取り組んでいます。

また、水田における園芸作物の栽培支援を行い、不作付け水田の拡大防止と、稲作と園芸作物との複合經營を推進し、農家の所得向上を支援しています。さらに、新たに地域農産物のブランド化に取り組むほか、企業との連携を図りながら、消費拡大に向けた新商品開発、製造・販売体制の確立に取り組むことで6次産業化を推進しています。

林業については、地球環境保全の観点から環境共生基金を活用し、間伐材の利活用と森林の整備促進に取り組んでいます。



■魚沼コシヒカリ ブランド価値をさらに高めるため、気候変動に左右されない高品質・良食味・安心安全な生産体制の確立を目指します。



■きのこ 十日町市はえのきとなめこの生産で県内トップの产地となりました。品質面でも、価格面でも他の产地に対抗するため、工場の増設や設備の充実などを支援します。



■IT産業 十日町市では早くから、進出企業の誘致や市内で頑張っているやる気のある人や起業家への支援を積極的に行っています。



■電子部品製造 十日町市では豊富な水資源を活かし、精密機械、電気機械、食料品製造業など、良質の水を必要とする製造業の育成を図っています。



■へぎそば 十日町市は、昔からそば処としても有名です。つなぎに布海苔を使い、「へぎ」という木製の器に「手ぐり」と呼ばれる美しい盛りつけで供される「へぎそば」が主流。



■商店街 各種イベントの開催や個店の魅力を高めるアドバイザー事業など、賑わい創出のための商店街改革・店舗づくりに取り組んでいます。



とかまち市は個店と商店街の活性化の一助に坂井さんの発案でスタート。毎月10日に毎回趣向を凝らしたテーマで開催されています。

十日町商工会議所
中心商店街活性化コーディネーター
坂井 昌宏
（まちゅうこうさん）
東京都出身、外食産業・中食産業のスーパー・パizzeria・商品開発・販促を経てセディス業の「セザンヌ」へ入社。その後、知識と経験を任された現職に就任せました。
を基に、2010年10月より十日町の商店街活性化を任された現職に就任せました。



商店街活性化の必要条件は「お客様満足」

「中心商店街活性化のための企画運営・ネットワークの形成等」というのが募集チラシに書かれていた業務内容。自分の経験が活かせたかったより商店街といふいうまち全体を盛り上げる事といつとろに惹かれました。とかまちの企画・運営「とかまち逸品会」の運営推進、商店街にぎわい研究所の運営などなど、いろいろやってますが、大切にしているのが「お客様満足」です。活性化のためには、ます、たくさんのお客様に足を運んでもらい満足を得てもらおう。商店街を好きになつてもらう必要があります。このことを何度も繰り返し話しています。

■きもの産業(十日町明石ちぢみ)
十日町さものは産業であり文化であり芸術でもあります。伝統を技を受け継ぎながら、新しい時代にマッチしたビジネス展開にもチャレンジしています。

地域に活力を生む 経済政策を推進

スマートテスト「トオコノ」の開催や新商品等の開発支援、販路拡大活動への助成などを展開しています。

地域ブランドの構築については、十日町ブランドメニューの開発を目指す市民の自主活動を支援しています。大地の芸術祭をきっかけに、地域の名産品を若手クリエイターの手でリデザインする「Rooootis」の取り組みで生まれ変わったパッケージなどがグッドデザイン賞をはじめとする国内外のデザイン賞を受賞し、新たなブランドの確立に成功しました。

さらに、「全国きものサミット」や染織の祭典「十日町祭」、「十日町産業フェア」などのイベントを通じて地場産業の振興支援に努めています。また、友好姉妹都市など交流都市のほか、紀州梅で知られる和歌山県田辺市との名産地連携など、他の自治体とも積極的に連携し、十日町市産品の情報を発信することで、產品の販路拡大に取り組んでいます。